

19日 20日

十九日は、奉賛会が伊香保神社の荘厳華麗な本神輿を町内渡御し石段街を担ぎ上げ、伊香保神社に奉納します。重さ数百キロにもなる本神輿を担ぎ、伊香保神社を目指して石段街を登る姿は威風堂々と見応え充分です。



▲石段街を渡御する本神輿



▲伊香保祭囃子(ばやし)保存会



▲輪おどり



▲樽みこしと若連衆

そして19日・20日は、伊香保まつりの特徴でもある樽みこしが石段街をもみ上げ、祭りを一層にぎやかにします。樽みこしは、木の丸太棒を2本ずつ十字に組み、その中心に化粧を施した酒樽を乗せて出来ている神輿です。担ぎ手は酒樽を背に腰の位置で2本の棒を持ち、酒樽を360度人が囲んだ形でもみ合います。毎年、「若連」と呼ばれる町内の20代・30代の男性を中心とした若者の組織によって手作りされています。子供から大人まで十一基が一斉に急な石段街を樽みこしでもみあいながら登る姿は見事で、中には勢いあまって石段を転げ落ちることもしばしばあり、正に興奮のつぼと言えます。

また、その他にも伊香保まつり期間中には、伊香保祭ばやし保存会による子供ばやしや、旅館の女将さん達や町内のご夫人方による輪踊りも行われ、初秋の伊香保温泉に色を添える3日間となっています。